

— フッ化物応用、予防填塞法の勘所 —

福岡歯科大学附属病院歯科衛生士部

今村 まり子



■ 略歴

昭和59年

福岡歯科大学附属歯科衛生専門学校卒業

福岡歯科大学附属病院勤務

平成5年

同病院小児歯科配属、現在に至る

近年、歯科医療を取り巻く環境の変貌は著しく、疾病構造の変化、高齢化社会の到来あるいは障害者ケアといった諸問題を背景に、歯科医療において切削を中心とした医療体系から歯科疾患の予防を中心としたものに変わりつつあります。歯科衛生士の業務体系においても、歯科診療補助から歯科予防処置へと変化し、ますます歯科衛生士としての資質が問われるようになってきたと考えられます。歯科医師会が発起人として8020運動がスタートしましたが、この目標の達成には、子供の頃からの齲蝕予防と歯ブラシ習慣が重要であることは言うまでもありません。それには、歯科医師と保護者、そして歯科衛生士とが一緒になって子供達の歯を守ることが大切と思います。また、齲蝕予防には色々な種類と方法がありますが、少子化が到来する今こそ個々の小児の口腔状態に合わせた予防方法を選択検討する必要があると思われます。

そこで今回私は、福岡歯科大学附属病院小児歯科で行っている保健指導や齲蝕予防法を紹介し、また、最近注目されている各種予防法についても検討するつもりです。今回の発表が子供達の齲蝕予防を考えるうえで、お役に立てればと思っています。